手塚治虫作品『ケン１探偵長』に見る言語表現

2010/05/04　更新

はじめに

『ケン１探偵長』は、初出「少年クラブ」（一九四五年六月号～一九五六年十二月号、講談社刊）に掲載されました。この「探偵」物は、「少年探偵団」という標語を生み出す、謂わば、数々の謎やトリックを解明しながら事件を解決していくといった少年探偵が活躍する推理漫画です。この漫画の主人公である「ケン一」は、全国に二十六もある少年秘密探偵結社の探偵長という人物像で描かれていきます。この「ケン一」少年が手塚漫画のキャラクターのなかで、次々と後の作品に登場する探偵「ヒゲおやじ」こそが彼の成長した姿ではないかと私は考えています。このケン一少年は、探偵長として世界（インド・香港・南米）を縦横無尽に経巡りながら、事件と関わって大いなる活躍を展開していきます。彼の助手ドングリは、九官鳥です。

http://img.fujisan.co.jp/digital/actibook/4218/1381687337/413455/_SWF_Window.html?mode=1063

漢字表記語とかな表記語の実際

本書の日本語の言語使用情況をここで精査分析を試みたいと思います。漢字、カタカナ、ひらがな、アルファベット、算用数字、文字符号によって表記されています。今私たちが用いている表記文字に基づく作品であることが分かります。ここで、漢語と和語とを表す漢字表記する語にはすべてふりがなが付されています。また逆にかな書きされた語のなかにも、和語と漢語が見えています。そこで、ここでも漢語の表記に着目して、漢字表記語とかな表記語とで記載された文言を見てみることにしましょう。この語彙抽出作業を進めていく上で、“エクセル”を用いて入力作業行ってみようと考えます。その結果をここにことばの一覧として掲載することになっていきます。

語種	語数	品詞	漢字	かな	カナ	混用	自立語計	附属語計	合計
漢語		名詞	44	21	0	10	75	0	75
		動詞	1	4	0	0	5		5
		形容語	0	3	0	0	3		3
	83	小計	45	28	0	10	83	0	83
和語		名詞	29	35	6	7	77	276	
		動詞	2	92	0	2	96		
		形容詞	0	26	0	0	26		
		副詞	1	6	8	1	16		
		連体詞	0	10	0	0	10		
		接続詞	0	11	0	0	11		
		感動詞	0	27	12	1	40		
		指示詞	0	22	0	0	22		
		句	0	2	0	0	2		
	300	小計	32	231	26	11	300	276	576
外来語	7	名詞	0	0	7	0	7	0	7
混用語	28	名詞	4	9	0	15	28	0	28
合計	418		81	268	33	36	418	276	694
符号	16	余情符					9	…	
		感嘆符					1	！	
		疑問符					5	？	
		疑嘆符					1	！？	16
									710

※実例「龍巻爆弾」の章を使って分析してみました。実際に、どのようなことば使用されているのかが、この表より確認することが出来ます。

たとえば、動詞の語は漢字表記の例が少なく、

［漢語］83語

A　漢字表記語［延べ語数46語］

運（12頁70齣）→「運のつき」。

注意（6⑦）。**汽車**（6⑩）。

淡水魚（11頁53齣）。検察庁（12頁46齣）。女学生（6頁14齣）。新聞社（11頁62齣）。放射能（7頁19齣）。

熱帯魚（12頁66齣）→他三例は混用表記語。

学校図書館（10頁46齣）。東父新聞社（6頁15齣）→「東武新聞社」のもじり。

B　かな表記語［延べ語数28語］

ごふくやのでっち【呉服屋の丁稚】（6⑧）。

ぼく【僕】。**れい**【例】。**へん**【変】2。

あんない【案内】（古くは「あない」とも表記）①文案の内容。特に官庁の先例・内規を書き写した文書。②事情。内情。今昔物語集(17)「僧等―を知らざるに依りて」③取次を乞うこと。問い合わせること。今昔物語集(4)「門にして人を以て―を申し入れむが為に伺ひ立てり」。「―を請う」④その場所を知らない人などを導いて連れて歩くこと。また、その人。「館内を―する」「水先―」「道―」⑤事情を説明し知らせること。また、その知らせ。通知。「入学―」「―書」⑥事情を知っていること。「すでに御―の通り」。

いじょう【以上】①程度・数量などについて、それより多い、または優れていること。法律・数学などでは、基準の数量を含みそれより上。「18歳―」「中級―」「予想―のでき」②これまで続けてきたこと。今までに述べたこと。「―で報告を終わります」。③手紙・目録・箇条書などの末に記して、「これまでで終わる」という意を表す語。「太郎・次郎・三郎、―3名」④高度の位置・技量などに達すること。至花道「是を集め、非を除（の）けて、―して時々上手の見する」⑤御目見以上（おめみえいじょう）の略。⑥（接続助詞のように）…からには。…の上は。「約束した―、必ず実行いたします」⇔以下

かいけつ【解決】問題やもつれた事件などを、うまく処理すること。また、事件が片づくこと。「問題を―する」「紛争が―する」。

かくご【覚悟】①〔仏〕迷いを去り、道理をさとること。②知ること。平家物語(1)「郎従、小庭に祗候の由、全く―仕らず」③記憶すること。暗誦すること。連理秘抄「古歌をよくよく―すべし」。

かんたん【簡単】こみいっていないこと。てがるなこと。てみじか。「―な機械」「―に話す」「言うだけなら―だ」「―にはあきらめない」④心に待ち設けること。心がまえ。平治物語「これらはもとより―の前にて侍れば、あながちおどろくべきにては候はねども」。「苦しいのは―の上だ」⑤あきらめること。観念すること。狂言、武悪「とてもものがれぬところじゃ。―せい」おどろくべきにては候はねども」。「苦しいのは―の上だ」。

かんてい【鑑定】①物の真偽・良否などを見定めること。めきき。「筆跡―」「真贋を―する」②〔法〕学識経験を有する第三者が、裁判官の判断能力を補助するため、専門的見地からの判断を報告すること。

ごめん【御免】①免許の尊敬語。おかみのおゆるし。「天下―」②免官・免職の尊敬語。「御役―となる」。②免官・免職の尊敬語。「御役―となる」③容赦・赦免の尊敬語。転じて、謝罪・訪問・辞去などの時の挨拶。④希望しないこと。いやなこと。「残業は―だ」

こんど【今度】2①このたび。今回。史記抄「―の功を賞せらるるぞ」。「―の事件」②この次。「―行きます」「また―ね」。

じけん【事件】①事柄。事項。②（意外な）できごと。もめごと。「世間を騒がす―」③訴訟事件の略。裁判所に訴えられている事柄。「刑事―」。

じっけん【実験】①〔顔氏家訓(帰心)〕実際の経験。②（experiment）理論や仮説が正しいかどうかを人為的に一定の条件を設定してためし、確かめてみること。「―して確かめる」。

じゃま【邪魔】①〔仏〕仏道修行をさまたげるよこしまな悪魔。②さまたげ。障害。「―が入る」「勉強を―する」③（「お―（を）する」の形で）他家を訪問すること。。

しゅるい【種類】いくつかの個体に共通の性質によって分類しまとめたもの。また、そのようにして総体を分類したときに生ずるまとまり。「花の―」。

そうとう【相当】①程度や地位などが、そのものにふさわしいこと、つりあうこと、あてはまること。「国賓―の待遇」「死に―する罪」「それ―のお礼」。②（副詞的にも用いる）普通を超えているさま。かなりな程度であるさま。「―な自信家」「―ひどい傷」

だいじょうぶ【大丈夫】①（ダイジョウフとも）立派な男子。寂室録「参禅は実に―のことにして」②しっかりしているさま。ごく堅固なさま。あぶなげのないさま。浮世床(初)「息子もよくかせいで利口者だから身上は―だ」。「強い地震にも―な建物」③間違いなく。たしかに。「―、勘定は払うよ」。

だいぶ【大分】〔名〕〔副〕かなりの程度。だいぶん。「―うまくなった」「―以前のことだ」。

だんだん【段々】㊀〔名〕①だん。多くの段をきざんだもの。階段。「石の―」②次第。箇条箇条。かどかど。狂言、鴈雁金「只今の―申上げたれば」③多くのきざみがついたさま。また、きれぎれ。栂尾明恵上人伝記(上)「身肉―に切られて散在せり」④かずかず。いろいろ。浄瑠璃、堀川波鼓「是には言訳―あり」㊁〔副〕順をおって。しだいしだいに。浄瑠璃、丹波与作待夜の小室節「与作殿は―に奏者役番頭千三百石までお取立」。「―と明るくなる」「―出来るようになる」㊂〔感〕（京都の遊里語から）ありがとう。。

でっち【丁稚】（デシ（弟子）の転。一説に、双六の重一（でっち）からともいう）①職人または商人の家に年季奉公をする年少者。雑役に従事した。日本永代蔵(I)「惣領残して、すゑずゑを―奉公につかはしおき」②年少者を卑しめていう語。浄瑠璃、嫗山姥（こもちやまうば）「やあら―めが味をやるよ」。

ばくだん【爆弾】①爆薬を装塡し、これを爆発させて殺傷・破壊することを目的とする兵器。爆丸。爆裂弾。「―を投下する」②第二次大戦後出まわった粗悪な密造焼酎。③米・トウモロコシなどを加熱加圧して破裂させた食品。爆弾あられ。④周囲を混乱に陥れる突然で思いがけないもののたとえ。「―質問」

はれつ【破裂】①勢いよくやぶれさけること。さけくだけること。今昔物語集(I)「提婆達多は大地―して地獄に堕ぬ」。「水道管が―する」。②相談がまとまらないこと。談判が成り立たないこと。決裂。森鷗外、雁「根本的に談判が―しないにも限らぬ」

ゆうれい【幽霊】①死んだ人の魂。亡魂。太平記(11)「其の亡魂―尚も此の地に留つて」。②死者が成仏し得ないで、この世に姿を現したもの。亡者（もうじゃ）。③比喩的に、実際には無いのにあるように見せかけたもの。「―会員」

〔『広辞苑』第六版〕

C　カナ表記語［延べ語数０語］

D　混用表記語〔９語〕

龍巻爆弾（たつまきばくだん）〔５題〕。

ねったい魚(ぎょ)〔7頁20齣〕。

［和語］576語（300語＝名詞77語、動詞96語、形容詞26語、副詞16語他／助辞276語）

A　漢字表記語（32語）

雨(あめ)〔5頁3齣〕。魚(さかな)〔7頁18齣〕。水(みず)〔8頁30齣〕。

手紙(てがみ)〔7頁17齣〕。

久津井(くづい)〔5頁6齣〕…この駅名は実在しない。但し但馬に「久津井港」という地名がある。

剣尾島〔11頁53齣〕手書き文字表記…架空の島歟。

B　かな表記語（231語）

えもの【獲物】【9頁37齣】①漁猟でとった鳥獣・魚など。また、動物などが食物としてとる鳥獣虫魚。〈類聚名義抄〉。「―をねらう」②うばいとった物。取得物。。

あいことば【合言葉】〔6⑫〕①お互いが仲間であることを確認するため、前もって問と答とを打ち合わせておく合図の言葉。「山」と言えば「川」と答えるなど。②仲間同士の主張を端的に表す標語。モットー。「博愛を―とする」。

C　カナ表記語（26語）

サカナ【魚】〔5頁3齣〕…この一例は手書き文字。

D　混用表記語（11語）

ハチの巣【蜂の巣】〔8㉔〕①蜂が幼虫を育て、また時には花の蜜を貯蔵するために造る巣。ふつうにはミツバチのように腹部から分泌する蠟物質や、アシナガバチのように木部などを噛んで唾液とまぜたパルプを原料として造る、多数の六角柱状の室（巣房）から成るものを指す。季春②〔機〕工具の一種。鋳鉄製の台で、三角・四角・丸など、種々の孔をあけてあり、鍛造の際この孔を用いて加工を行うもの。。

大さわぎ【8頁24齣】。大あたり【12頁63齣】。

［外来語］7語

スウオード・テイル【剣尾魚】〔11頁53齣〕

※『仏和海洋辞典』xiphophore: n.m.［魚］ソードテール、剣尾魚［メキシコ湾原産; 観賞用淡水魚］.

手塚作品に『プライム・ローズ』という作品がある。この主人公であるエミヤ（プライム・ローズ）が剣の試合に出場する。この試合を作品中では「スウォード・プレイ」と呼称している。この外来語である「スウォード」の言語は、ソード（sword、剣）、シールド（shield、たて）アーマー（armor、よろい）と言うヨーロッパ騎士のスタイルを以てすれば、「スウォード」は「sword」と言

うことになる。ちなみに、日本刀は、「samurai sword（サムライ・スウオード）」と呼称している。

レントゲン〔10頁43行〕。ラジウム〔11頁57・58・59齣、12頁66齣〕。ニュース〔12頁63齣〕。

ガンダーラ【Gandhāra・健駄羅】パキスタン北西部、ペシャーワル地方の古名。紀元前後より数世紀間にわたって、この地を中心にギリシア美術の影響を受けた仏教芸術が発達。ケンダラ。乾陀羅。〔『広辞苑』第六版〕〔16頁33齣〕

ヒンズー語「アボダラクプクトカンヤン」

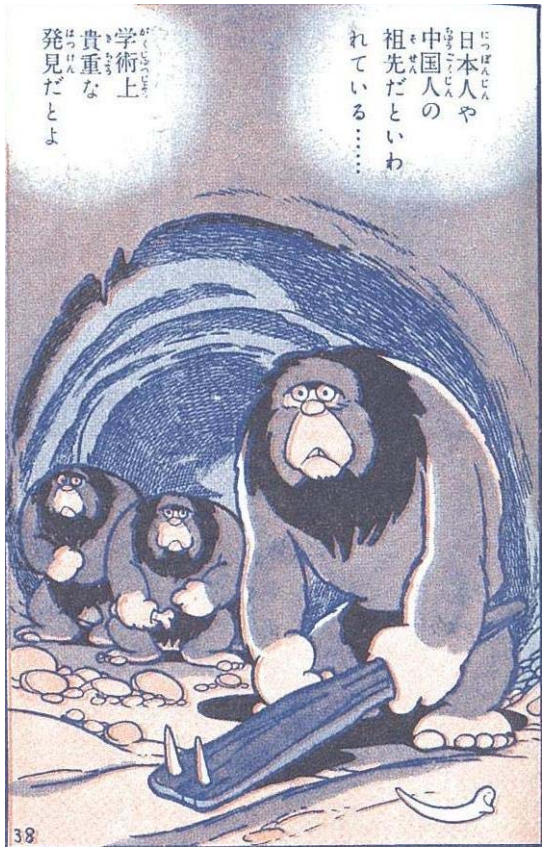
［混用語］［延べ語数28語］

タツマキ爆弾〔5③新聞手書き〕。「ニキビ環礁」〔5③新聞手書き〕。名産かみなりおこし〔5④看板手書き〕。いなかべん【田舎弁】〔6⑧〕。

語彙の蒐集

北京原人

○いまから三十年ほどまえ、中国北京のちかくの周口店という村でほりだされた原始人のずがい骨の化石だよ。日本人や中国人の祖先だといわれている……学術上貴重な発見だとよ。その化石が戦争ちゅう日本軍の手でいじくりまわされ終戦とどうじにゆくえふめいになった。世界じゅうの学者たちは血まなこだ。アメリカのクロックフェラー財団ではこの化石をさがしだしたものにばくだいな賞金をかけているんだ。〈〉その化石は蒙古のおくにある。終戦と同時に日本軍のある将校が、蒙古のおくにうめた。しかもそのありかを、こともあろうに、じぶんのむすこのあたまへいれずみできざみこんだそうだ。〔133頁36齣～43齣〕

年貢のおさめ時

○年貢のおさめ時と思ったとたん暗号のかぎをみつけたんだからな〔226頁48齣〕